

育休復帰プログラム開発に関する調査報告書

当事者へのアンケート及びインタビュー調査から

2023年3月XX日

Tottori Mama's

目次

概要.....	3
目的.....	3
方法など.....	3
内容.....	3
アンケート（全9問）.....	3
インタビュー（非構造化）.....	5
結果.....	5
アンケート集計.....	5
インタビューログ.....	11
分析及び考察.....	13
アンケート.....	13
インタビュー.....	17
まとめと提言.....	18
仕事と子育てに関する意識変容のプロセス.....	18
公共が提供する仕事復帰プログラムの方向性.....	18
図 1 現在の状況.....	5
図 2 仕事復帰前の不安有無.....	6
図 3 仕事復帰後の勤務形態.....	7
図 4 仕事復帰への不安内容の重点分析.....	14
図 5 仕事復帰前に行った準備の重点分析.....	16
図 6 仕事復帰前に知っておきたかったことの重点分析.....	17

概要

目的

自治体など公的機関が育休復帰プログラムを実施する際の参加者ニーズを把握する。

方法など

方法	対象者及び調査期間	サンプル数	手段
アンケート	育休取得中の女性 (10/14~16)	43	Google フォーム
インタビュー (各60分程度)	・法人：総合建設業 (12/15) ・法人：建築／不動産業 (12/21) ・個人：保育士 (12/21) ・個人：看護師 (12/21) ・法人：保険業 (2/20) ・法人：小売業 (2/28)	6	Zoom オンライン

表 1 調査方法

内容

アンケート (全9問)

- 現在の状況 (必須：単一選択)
 - 育休中である
 - 育休後に仕事に復帰した
 - 妊娠出産を機に退職。いつかまた働きたいと思っている
- 仕事に復帰する前の不安はありましたか？ (必須：単一選択)
 - あった
 - なかった
- 設問2で「あった」を回答された方へ、どんな不安がありましたか？ (複数選択)
 - 仕事と子育ての両立ができるか不安
 - 育休前の業務から異動があるかもしれない (スキルや知識に不安)
 - 育休前の業務から異動があるかもしれない (職場内人間関係に不安)
 - 職場のシステムが変わっているかもしれない (スキルや知識に不安)
 - 職場での子育てへの理解 (急な発熱でお休みと伝えづらい、理解がないなど)
 - 職場に迷惑をかけるかもしれない (早退や欠勤 など)
 - 早退や休みが取りにくい
 - 子育てそのものに対する理解が得られるか不安

- 時短勤務か通常か悩んでいる
 - 子どもとの時間が減るかもしれない、寂しい思いさせてしまうかも
 - 育休前のキャリアが保持できるか
 - キャリアアップ目指したいができるか不安
 - 保育園の送迎や病児の対応が自分しかできないかもしれない（ストレス）
 - 子育てを優先して仕事を辞めるか悩む
 - 子どもの生活リズムが崩れないか
 - パートナーと家事シェアがスムーズにできるか
 - 自分の体力が心配
 - 職場になじめるか
 - 時短勤務に職場が理解してもらえるか
 - 自分の時間がなくなる
4. 設問3で「その他」を回答された方へ、どんな不安がありましたか？（自由回答）
5. 仕事復帰後はフルタイムですか？時短勤務ですか？（復帰予定の方は見込みについて）
（必須：単一選択）
- フルタイム
 - 時短勤務
 - パート・バイト
6. 仕事復帰された方へ、復帰後に悩んだり困ったりしたことはありましたか？（自由回答）
7. 復帰される（した）職場環境が「こうだったらいいな」と思うことを教えてください。
（必須：自由回答）
8. 復帰される（した）前に、復帰後のために準備したことなどがあれば教えてください。
（必須：複数選択）
- ファミサポに登録
 - 実家近くに引越し
 - 病後児保育の登録
 - 家事代行サービスを契約
 - 実家のご家族にサポートをお願いした（する）
 - パートナーと家事分担について話し合う
 - 特になし
9. 復帰される（した）前に知っておきたかったことはありますか？（必須：複数選択）
- 時短家事のあれこれ
 - 女性の身体の変化について（産後～更年期）
 - 病後児保育などのサポート支援について
 - 先輩ママからのアドバイス

- コミュニケーション
- キャリアアップにつながるセミナー
インタビュー（非構造化）
- 法人：現状の育休制度と社員の取得状況
- 個人：現在の状況
- 共通：仕事復帰に向けた準備や調整
- 共通：育休中のフォロー／スキルアップへの取り組み
- 共通：公共機関に期待する育休中／復帰後のサポートプログラム

結果

アンケート集計

1. 現在の状況（必須：単一選択）

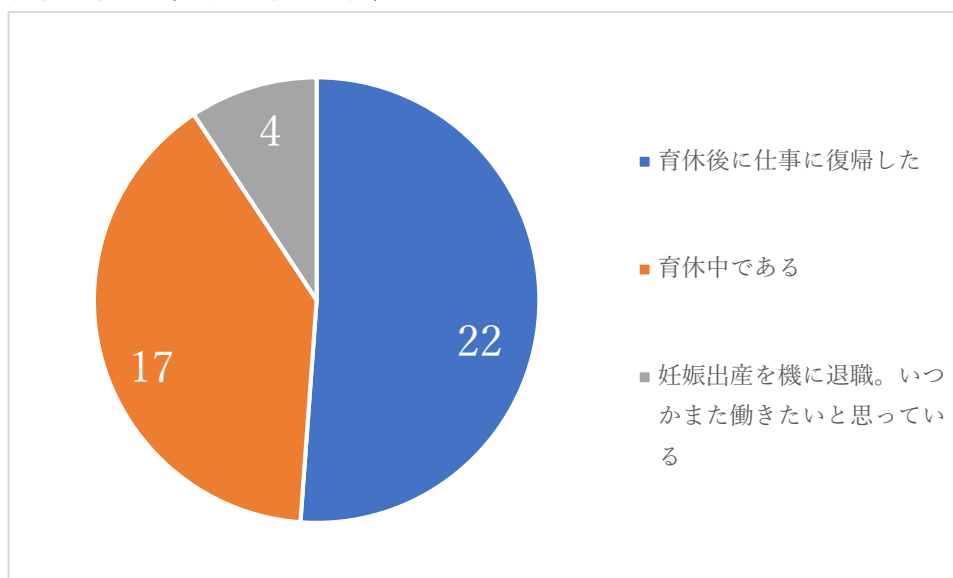


図 1 現在の状況

2. 仕事に復帰する前の不安はありましたか？（必須：単一選択）

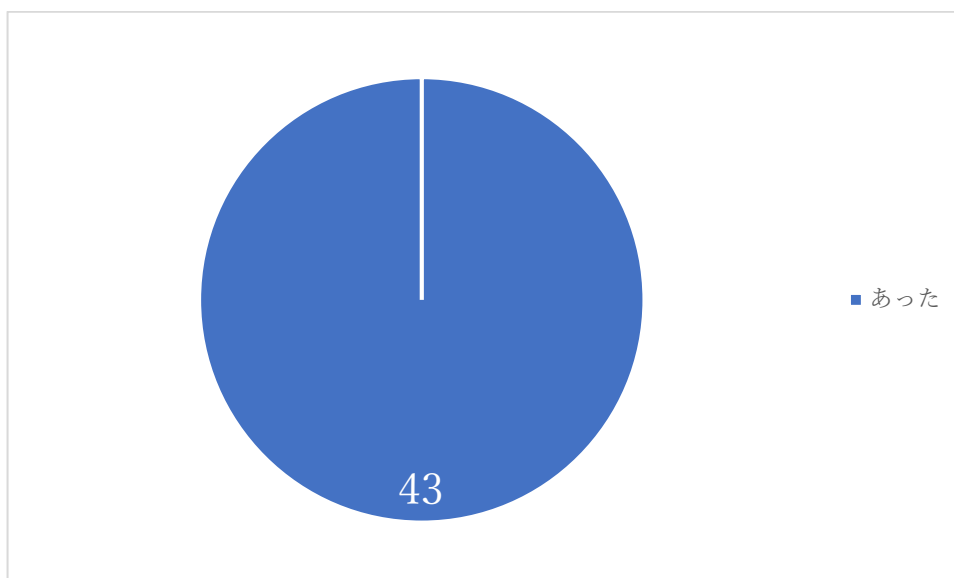


図 2 仕事復帰前の不安有無

3. 設問2で「あった」を回答された方へ、どんな不安がありましたか？（複数選択）

選択肢	回答数
仕事と子育ての両立ができるか不安	36
職場に迷惑をかけるかもしれない（早退や欠勤 など）	27
自分の体力が心配	27
職場のシステムが変わっているかもしれない（スキルや知識に不安）	25
子どもとの時間が減るかもしれない、寂しい思いさせてしまうかも	22
職場での子育てへの理解（急な発熱でお休みと伝え辛い、理解がない等）	18
保育園の送迎や病児の対応が自分しかできないかもしれない（ストレス）	16
早退や休みが取りにくい	14
育休前の業務から異動があるかもしれない（スキルや知識に不安）	13
時短勤務か通常か悩んでいる	13
職場になじめるか	11
パートナーと家事シェアがスムーズにできるか	11
子どもの生活リズムが崩れないか	11
時短勤務に職場が理解してもらえるか	8
育休前の業務から異動があるかもしれない（職場内人間関係に不安）	8
子育てそのものに対する理解が得られるか不安	8
子育てを優先して仕事を辞めるか悩む	8
キャリアアップ目指したいができるか不安	6
自分の時間がなくなる	6

表 2 仕事復帰前の不安内容

補足：回答数ゼロの選択肢はなかった。一人当たり平均回答数は 6.8 個。

4. 設問 3 で「その他」を回答された方へ、どんな不安がありましたか？（自由回答）
- 家事がこなせるか不安
 - 介護もあるので、まず、希望に合った介護施設が見つからない、見つかったとしても両立できるのか不安
 - 休みに入る前より、働く人たちの年齢層が自分より低くなっている。なじめるか心配
 - 金銭的にやっていけるか
 -
5. 仕事復帰後はフルタイムですか？時短勤務ですか？（復帰予定の方は見込みについて）
（必須：単一選択）

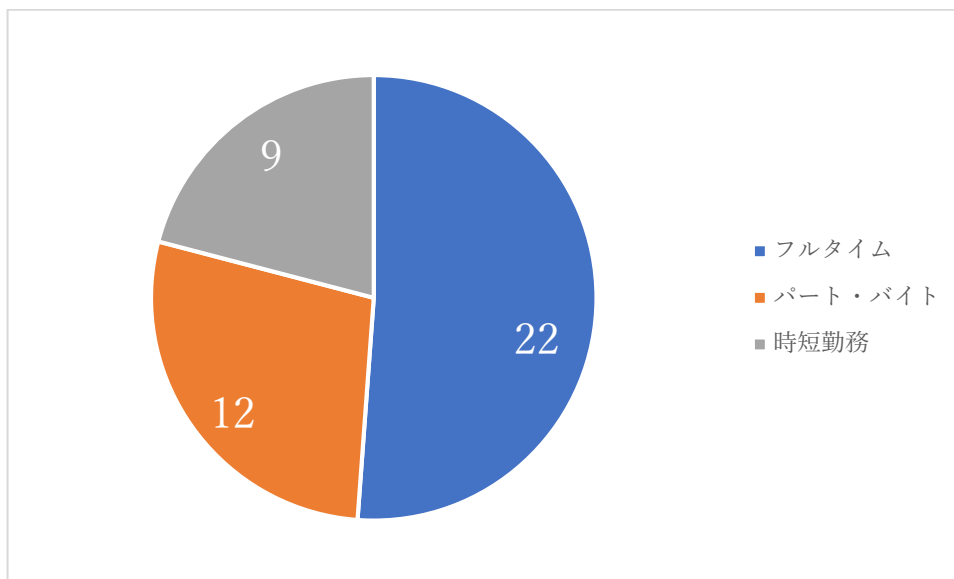


図 3 仕事復帰後の勤務形態

6. 仕事復帰された方へ、復帰後に悩んだり困ったりしたことはありましたか？（自由回答）
- 1 人目の時、すぐ子どもが園から病気をもらってきて何度も休まないといけなかった。
 - やはり子供の体調不良や休園、休校に伴う休み
 - やはり病気になりよく休んでしまうところ。仕事に行かないと行けないからゆっくりに子供を休ませてあげられない。無理を言ってもお金を貰えなくても育休を

延ばせば良かった。

- 肩身がせまい。体力的にも辛い。
- 家事をする時間が寝かしつけ後になるので寝不足が続いている
- 業務内容や、戻るポジションが下に部下がいる場合、時短勤務だと、それ以外の時間に、他へ仕事を任せることになる。部下への示しが見つからないと感じて、時短勤務は短期間にして、フルタイムで早々に変更することにして、復帰計画をたてた。家の為には、時短がいいと感じている。
- 敬語の使い方が分からない。上司が自分より若いのに、頼りにならない自分が情けない。
- 迎えがいつもギリギリになることと、帰ってから子供と向き合う時間がない
- 産後の体調不良や頭の回転が悪くなり、思い通りの働きができなかった。育児との両立が出来なかった。
- 仕事にやりがいはあるけど、忙しい職場なので全力で仕事に向かわないといけない。子供の行事ごとは優先して休みにして参加しているけど、その他の心配事が出来たときに子供のことを優先して働く方法を選んだほうがいいのかと悩む。
- 子どもの急な体調不良で欠勤。休みを取る事や連絡するのが憂鬱でした。
- 子どもの体調不良で病児保育にも入らず休みを頻繁にとっていたら「あなただけ休みが目立つ」と言われて本当に辛かった。
- 子供が病気で休んだりするのに迷惑をかけたこと。宿泊を伴う出張があり家のことが心配だった。
- 時短なのに、仕事量が多くて、キャパオーバーを実感しているが、周りも忙しそうなのでなかなか頼みづらいこと。職場の会計システムが変わっていて、復帰したては仕事がなかなか進まなくて焦った。
- 上司が男性ばかりで、相談しにくい。
- 保育園に入りたいなと思っているが、パート時間が短いから入れられなくて、ほかの仕事の方が良いのか悩み中。
- 保育園に預ける時間が長いこと。
- 正直、朝早くから行って、夜遅く迎えに行くのがかわいそうだと思った。
- 保育園のお迎えの時間があるので、産前とは同じように働けない。仕事も家事も時間が足りないと感じた。
- 夜ご飯の支度が遅くなり、子どもたちのリズムが作ってあげられなかった。
- 幼稚園のお迎えが遅くなるのがよくあり、子どもに申し訳ない。病後児保育もコロナと体調不良時に不慣れな環境に子どもを行かせるので申し訳ない。

7. 復帰される(した)職場環境が「こうだったらいいな」ということを教えてください。
(必須：自由回答)

- (自分より旦那さんですが) 男性も休みがとりやすい環境。旦那さんがもっと送迎に行けたり、看病等の急な休みもとれたりすれば、お互い半々でいけると思う。どうしても母親が休みを取るのが当たり前みたいな雰囲気があって、職場に迷惑をかけて精神的に辛い。
- キャリアアップをサポートしてくれる
- コロナで在宅勤務できる制度が良くなったが、在宅で公用電話をできる制度が整っていないので、さらに整備してほしい。
- とにかく休みがとりやすく、業務内容が勤務時間内に見合っている
- どの職場にも子どもの看護休暇をとれるようにしてほしい
- パートではなく、時短勤務の正職という雇用があるといいなと思った。
- 以前 TV で見たエビの加工会社が、『遅刻欠勤の連絡禁止』となっており、好きな時間に出勤して帰れるというところだった。子供の体調不良などで休むことが増え、その連絡を会社にするのはストレスになるので、その点でいいなと思った。パートだと出勤した分だけしか給料が貰えないので、皆がそれなりにきちんと出勤するので遅刻欠勤自由でも会社としては困っていないとのことだった。こういう会社で働けると嬉しい。
- 早く定時で帰らせてほしい。急な保育園からの呼び出しにも笑顔で送り出してほしい。
- 既婚者も独身者も、子育て中の方も、誰かが負担感を感じるような職場は、違うと思う。休みがとりやすい
- 休みが取りやすい
- 休みに寛容であり、希望休みを聞いてくれること。(もちろん持ちつ持たれつだと思うけど)
- 休みやすい環境であること。
- 休みを取りやすい、育休明け1年は時短勤務ができると良いなと思います。あと、権利はあっても雰囲気が悪いと取りづらいので、絶対できる所が良いです。
- 急な休みでも理解のある職場。
- 現在は、日勤業務が多いところに異動し、ママさんも多いので、相談には困らない。スムーズに異動できたので、助かった。しかし、フルタイム業務なので、やはり子どもとの時間が少ないのが…不安ではある。
- 今まで通り頑張りが認められる職場が続いていればいいなと思う。
- 産休前と大きく変わっていなかったら良いと思う。
- 子どもの体調不良など急なお休みへの理解
- 子育てしている人に対して理解が得られる職場
- 子育てとの両立で大変だという理解がある。
- 子育てに理解があり、早退や急な休暇を受け入れてくれる。

- 子育てに理解があり「お互い様」という精神がみんなにあれば休みやすく働きやすい。子育てに理解がある、急な休みに対応できる、人間関係でいざこざがない
- 子育てに理解を示してくれる
- 子育て以外でもみんなで助け合える職場。
- 子育て中であることに理解のある職場
- 子供の看病の際の有給が全部特別休暇になったらいいなっています。
- 子供の体調不良や行事による休みや早退に理解してくれる
- 時間を長く勤務できたらなと思う。
- 時短の人を受け入れる体制（職員をその分厚く配置しておいてほしい）
- 時短や子育てに対して理解があったらなあ
- 時短をとることや、急な休みや早退または遅刻の場合の周囲の負担が減るような人員配置や働き方改革ができるようになってほしい。
- 時短勤務
- 受け持つ仕事は業務時間内に終わる量だといいな。残業、持ち帰り、休日出勤など多忙。人間関係が良好な場所。失敗しても、一緒に頑張ろうと言ってくれるし、言える環境がいい。
- 代わりの方がすぐに確保できるような、同じように子育てしている人が行ける時に行くことができるような、臨機応変さのあるところ
- 短時間でしっかり稼げる仕事
- 定時に帰りやすい雰囲気
- 定時に帰れて、体力的に余力を残して帰れる。スタッフがギリギリなので、自分が休みたいときに休める環境であってほしいし、ほかのスタッフが急に休んだときに忙しさが倍増となるから、スタッフの人数に余裕を持たせてほしい。
- 土日祝日休み。週4日勤務の5時間勤務など
- 半日勤務→フル勤務と慣らし保育ならぬ慣らし復帰があれば助かる。
- 保育園のお迎えの時間までに仕事が終われば良いなと思う。（たぶん、絶対に無理ですが…）

8. 復帰される（した）前に、復帰後のために準備したことなどがあれば教えてください。
（必須：複数選択）

選択肢	回答数
特になし	19
実家のご家族にサポートをお願いした（する）	17
パートナーと家事分担について話し合う	14
病後児保育の登録	3
実家近くに引越し	3

ファミサポに登録	2
家事代行サービスを契約	1

表 3 仕事復帰のために準備したこと

補足：回答数ゼロの選択肢はなかった。一人当たり平均回答数は 1.4 個。

9. 復帰される（した）前に知っておきたかったことはありますか？（必須：複数選択）

選択肢	回答数
病後児保育などのサポート支援について	21
先輩ママからのアドバイス	20
時短家事のあれこれ	17
女性の身体の変化について（産後～更年期）	14
キャリアアップにつながるセミナー	8
コミュニケーション	8
料理の作り置きの方法※	1
特にありません※	1

表 4 仕事復帰前に知っておきたかったこと

補足：「その他（自由回答）」2つを含む（※印）。

インタビューログ

- 法人：総合建設業（12/15 16:15～16:45）
 - ・業界性質上、女性社員は事務職に就いていることが多い。
 - ・育休中はその欠員ポストを他の社員がカバーする体制を取っており、臨時の雇用はしていない。
 - ・育休からの復帰条件は個別面談で決めている。
 - ・本人のスキルだけではなく、他社員に対して育休復帰後の関わり方を学べるとよい。
 - ・もしそうしたプログラムがあったとして、それを社員に受講してもらうには、例えば「建設系 CPD（建設系分野に関わる技術者の能力の維持向上を支援するための継続教育）」といった、既に社員が受講しているプログラムの一部に組み込まれたりするとよいのではないか。
- 個人：保育士（12/21 10:00～10:30）
 - ・長期育休を取得中。もともと制度としてはあったが、取得する人が自分の前にはいなかったそう。自分が取得後、一年以上の長期育休を取得する保育士が数名現れた。

- ・移住で土地勘がなかったため、子育て支援センターに通った。保育士の仕事復帰後もセンターで知り合った人に会えて安心した。
- ・職場の子育てへの理解があり、トラブル時に帰宅しやすいなど、特に困ることはなかった。
- ・自宅を新築したことをきっかけに（自宅に招くなどして）友人付き合いが増えた。料理など休暇が有意義になった。生活環境を整えることの大切さを実感した。

● 個人：看護師（12/21 11:30～12:00）

- ・復職済。復帰前に上司と面談し、配属部署や勤務時間についての希望や調整を行った。
- ・復帰前に面談したものの、本当に希望の部署に復帰できるのだろうか？という不安があった。
- ・復帰後は、職場の多忙な雰囲気もあり、仕事が時間通りには終わらず、定刻で帰れないことが多い（周囲の子育てに対する理解がないわけではなく状況として）。
- ・（育休中のプログラム受講への期待について）仕事と直接関係ないことだったら受講してみたい。例えば、お金、子育て、食、親子関係、自己理解など。

● 法人：建築／不動産業（12/21 16:00～16:30）

- ・育休制度については、新入社員研修で一連の流れを説明している。
- ・男性社員の育休取得数が多い。女性社員が若いため育休取得数は少ない。
- ・育休は分割取得が可能になったことで、より取得しやすくなった。
- ・社内では、男性社員の育休取得が当たり前の風景になっている。
- ・人は子を持つ親になることで考え方が変化する。それを考慮して、復帰前と復帰後に「復帰後も同じ仕事をしたいですか？」と同じ質問するようにしている。
- ・実績や社員の要望を踏まえて、子どもの看護休暇を有給の制度にした。
- ・テレワークの導入など、子どもがいても働き続けられる職場にしたい。

● 法人：保険業（2/20 10:00～10:30）

- ・社として育休制度は、一歳の誕生日の年度末まで取得できる。他県では制限いっぱいまで育休を取得する社員が多かったが、鳥取県では取得しない傾向がある（その背景には無給になるといった経済的な理由もあるかもしれない）。
- ・男性の育休（5日間）は、社の方針として100%の取得を強く実行している。
- ・復帰の一か月前に本人との面談を行っている。
- ・復帰に向けた社の独自サポートとして、「商品や営業向けの冊子の送付」、「先輩社員や復帰後の働くイメージを伝える動画コンテンツの配信」、「先輩社員と対面で話す機会の提供（社員数の大きな支店で）」を行っている。

- ・(行政が提供する仕事復帰サポートプログラムについて) 保育所の充実や、病児保育(病後も含む)といった施設整備を含む支援への期待が大きい。
- ・時短勤務の社員が増えると、それを補うために採用も増える。ここを公的補助金などで支援する制度などあったらよいかもしれない。
- ・(行政に限ったことではないが) 仕事をしていると買い物をする時間が取りにくい。食材を自宅に配達してくれるサービス利用の補助制度などあったらよいかもしれない。

● 法人：小売業 (2/28 15:00~15:30)

- ・育休は最長 18 カ月取得できる制度を整えている。現在では 100%の取得率。
- ・過去 10 年、累計で約 60 人の取得実績。
- ・本人から妊娠の報告があった時点で、上司と計画を立てる。手当や制度の説明、復職後のことなどをこの時点で話し合う
- ・復職は、前職が基本だが、より保育園に近い店舗への異動することもある。
- ・復職 2 日前に、接客などの実務トレーニング期間を設定している。
- ・育休に限らず、本人が希望する働き方を実現しやすい柔軟性、働くことへの悩みを相談しやすい職場環境を整えることが重要と考えている。
- ・(行政への要望や期待について) 特に考えたことがない。公的支援はセーフティネットと捉えている。子育ては自分ごとであり、あまりに公的支援に頼りがちになると考えなくなるのではないかと思う。

分析及び考察

アンケート

- ・回答者の全員が、「仕事に復帰する前の不安があった」と回答した。
- ・不安の内容について、仕事と子育ての両立への不安が最も多く、次いで、職場への迷惑や自身の体力不安、子どもとの時間が減ることへの不安が続く。

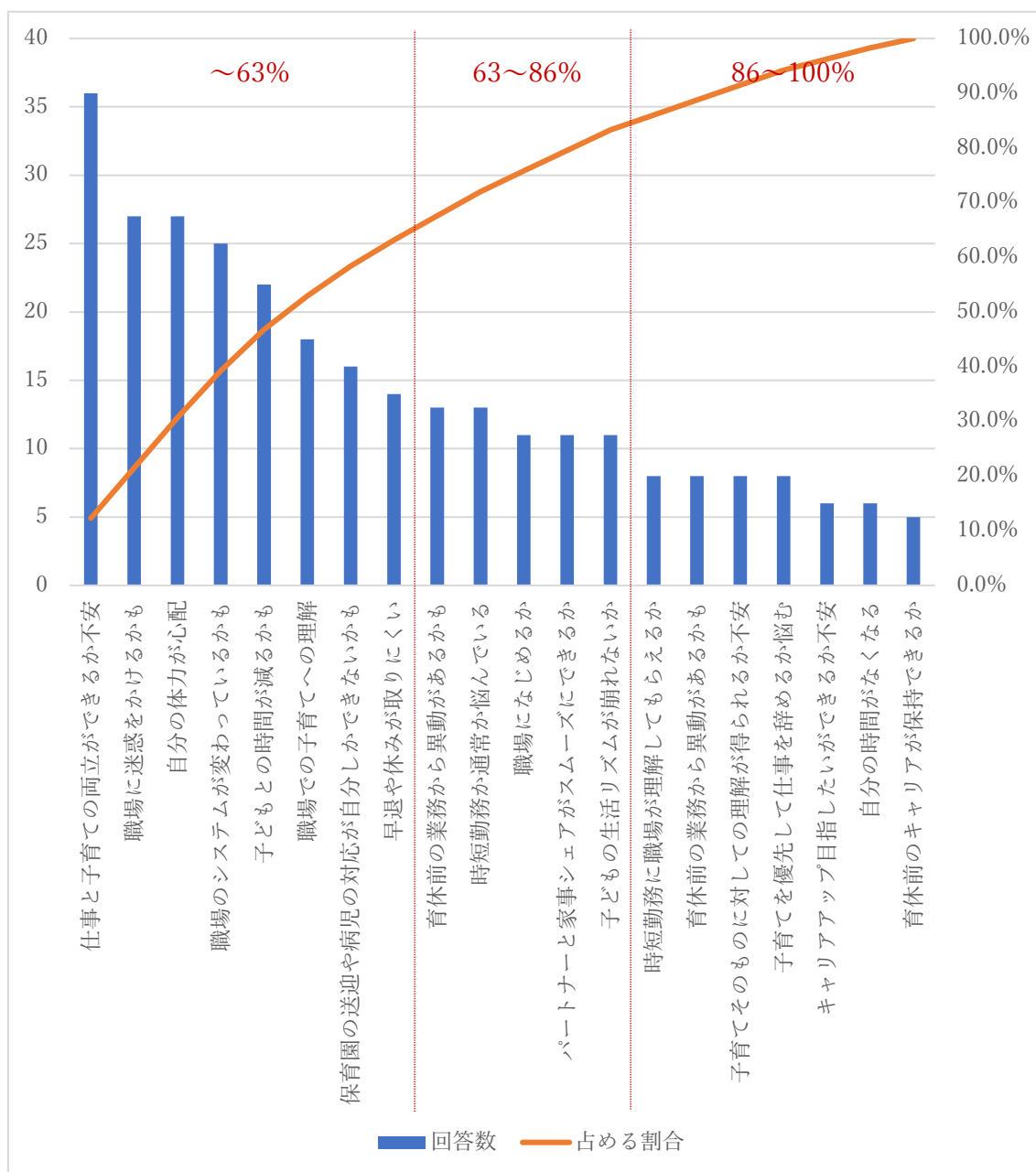


図 4 仕事復帰への不安内容の重点分析

- ・回答数が0個の選択肢がなかったこと、一人当たりの平均回答数が6.8個であったこと、回答の上位63%を占める選択肢の内容が多岐に渡ることなどから、仕事復帰においては、特定の内容ではなく、仕事、家庭、自分自身への全般的な不安を抱えていることが分かる。
- ・復帰後の勤務形態別に不安の上位5つを比較すると、フルタイムは仕事に多くの時間を割こうとする意識が、パート・アルバイトは仕事に多くの時間を割けない意識が、時短勤務は仕事と子育てを両立しようとする意識が表れている。復帰に向けた面談などでは、勤務形態の違いを意識することが重要と思われる。

	フルタイム	パート ・アルバイト	時短勤務
仕事と子育ての両立ができるか	1	2	1
職場に迷惑をかけるかも	2	3	5
職場のシステムが変わっているかも	3	-	3
子どもとの時間が減るかも	4	16	2
職場での子育てへの理解	5	6	15
自分の体力が心配	6	1	4
職場になじめるか	14	5	17
送迎や病児保育が自分しかできないかも	10	4	18

表 5 復帰後の勤務形態別の不安内容分析

・復帰後の悩みや困りごととして、子どもの体調不良による職場への影響、常に時間に追われる焦燥感、心身の疲労による仕事の能率低下など、復帰前の不安の筆頭でもある「仕事と子育ての両立」の困難に直面する様子が伺える。

・復帰する職場環境への期待として、子育てに伴って起きる遅刻・早退・欠勤が気兼ねなく取れる、より柔軟な働き方を求める声が大半を占める。またその実現には、子どもの体調不良など、急な状況変化を受け止められるだけの「(精神的・時間的な)余力」が、本人や周囲の双方に必要であることが伺える。

・復帰前に行った準備として、ほぼ大半が特になし、または、家族内調整に留まる。病児保育やファミサポ、家事代行サービスなど、家族関係を超えた外部支援サービスへのアプローチが極端に少ない。

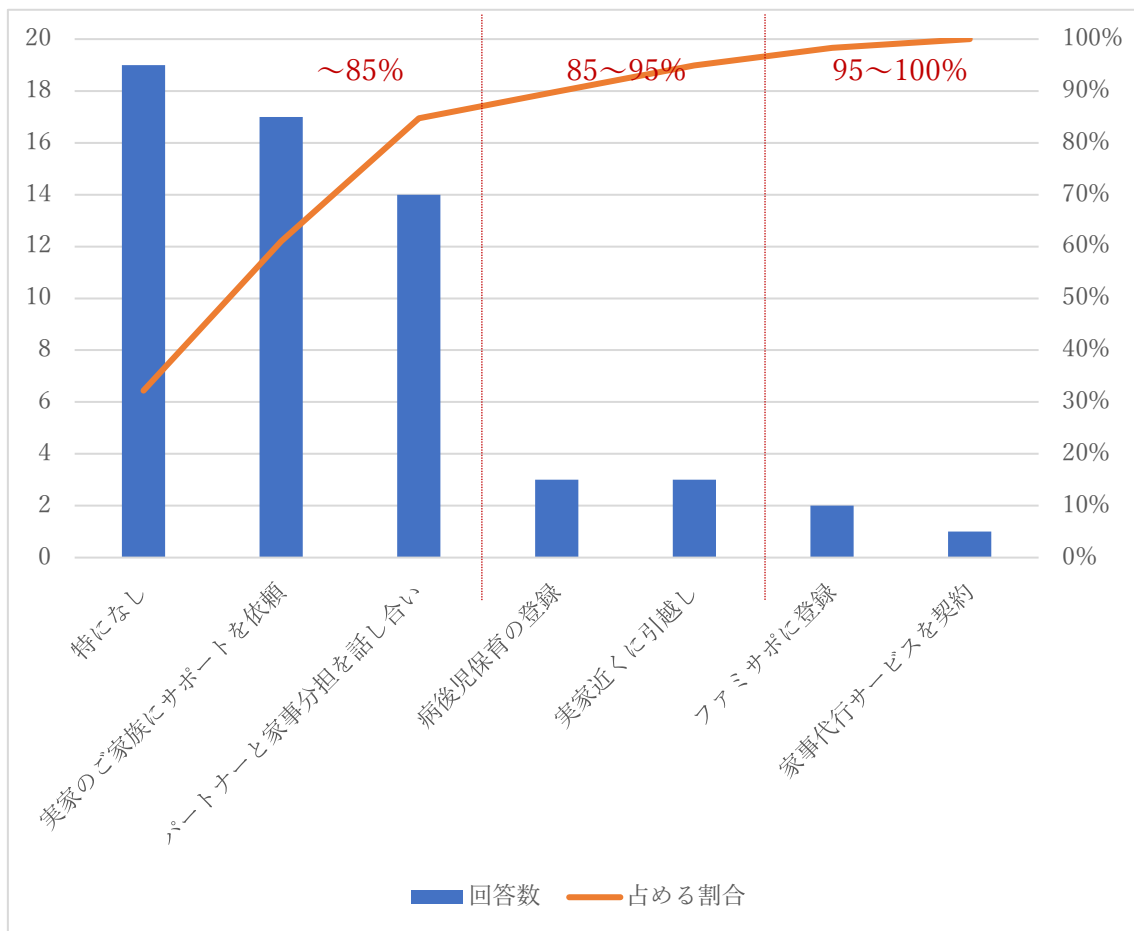


図 5 仕事復帰前に行った準備の重点分析

・復帰前に知っておきたかったこととして、家族関係以外の支援、経験者の助言、時間管理の工夫が上位を占める。復帰前には「自分（たち）で何とかなるだろう」と思っていたが、実際には難しく、外部支援や先人の知恵の価値を実感した心境が伺える。

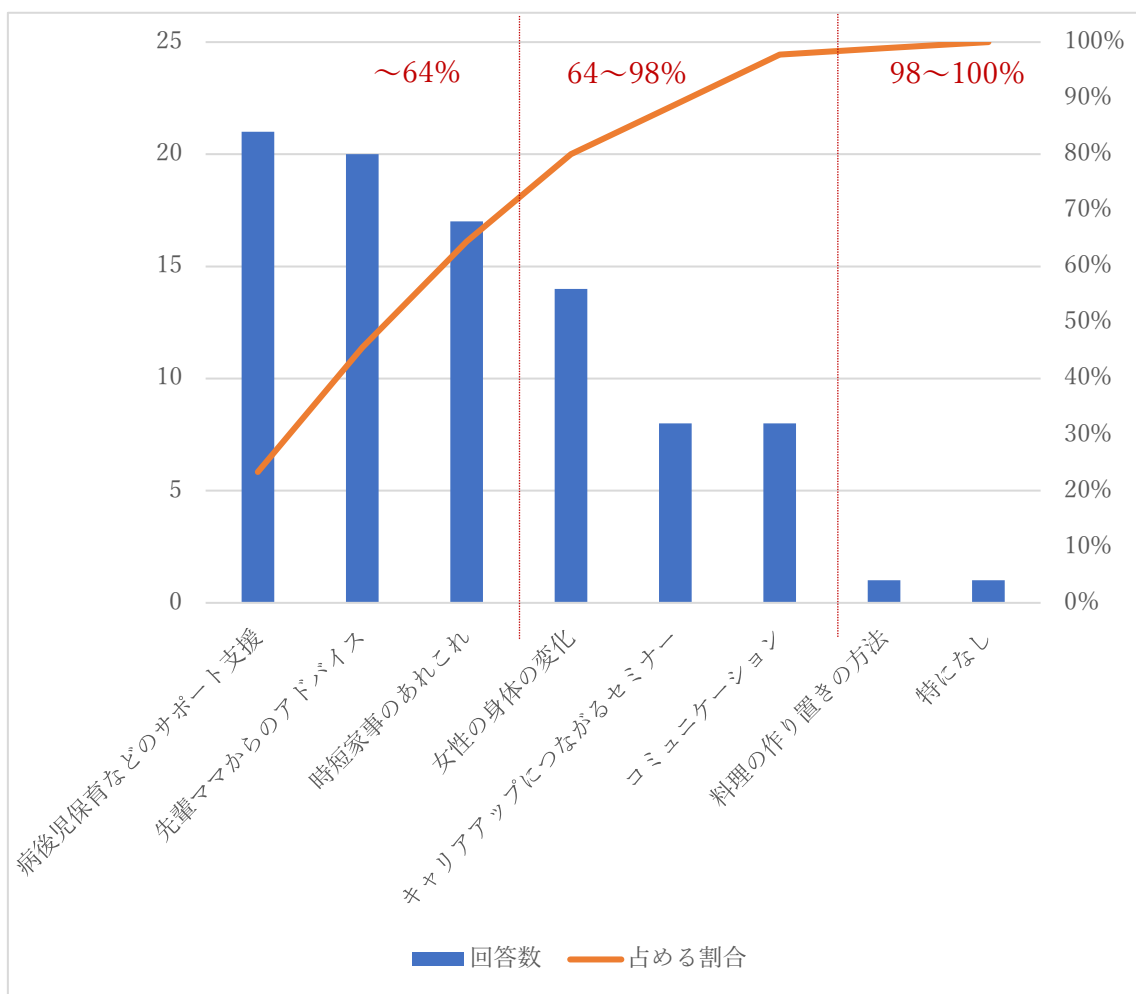


図 6 仕事復帰前に知っておきたかったことの重点分析

インタビュー

- ・個人では、仕事と子育ての両立への不安や、働きやすい職場のあり方など、アンケートと同様の傾向を持った語りが多かった。
- ・法人では、法に定められた制度の範疇で対応する企業と、独自に制度の充実に努める企業とに分かれた。後者においては、取得期間の延長や男性の取得促進、スムーズな復職に向けたコミュニケーションや独自コンテンツの提供などが行われており、事業や職務内容に沿った個別支援の重要性が伺える。
- ・育休復帰に関する、民間（法人）から公共（自治体等）への要望や期待は、「特になし（そもそも公共が復帰支援プログラムを提供する自体考えない）」、という反応が多かった。公共による育児支援は依然として、保育所の充実や病児保育施設など、ハード整備を伴う社会福祉制度のイメージが強い。

まとめと提言

仕事と子育てに関する意識変容のプロセス

一連の調査結果から、仕事と子育てに関する、以下のような意識変容プロセスが考えられる。

- ① 育休からの仕事復帰にあたり、勤務先との面談などを行うものの、本人の心理的不安は多岐に渡り尽きない。
- ② とはいえ、仕事復帰に向けた本人の準備は特に行われず、夫婦や家族内での相談や調整が行われる程度にとどまる。
- ③ 仕事復帰すると、子どもの体調不良による職場への影響、常に時間に追われる焦燥感、心身の疲労による仕事の能率低下など、仕事と子育ての両立の現実に直面するとともに、子育てが身内（本人・夫婦・家族）だけでは難しいことを実感する。
- ④ 病児・病後児保育サービスや子育て経験者からの助言など、身内を超えたより幅広い関係性で子育てすることの重要性や必要性に気付く。

公共が提供する仕事復帰プログラムの方向性

上記①～④の意識変容プロセスを共有するとともに、②の準備段階に介入し、④の「身内に閉じない仕事と子育ての生活環境を整える」ための情報提供や交流機会を提供することで、③の仕事復帰をよりスムーズにする効果が期待できるのではないかと。

以上